

情報通信審議会情報通信技術分科会  
移動衛星通信システム委員会（第11回）会合 議事要旨

- 1 日時  
平成20年12月1日（月）15時30分から16時30分
- 2 場所  
総務省10階 1001会議室
- 3 出席者（敬称略、順不同）
  - （1）構成員  
大森 慎吾（主査）、遠藤 信博、大石 雅寿、尾上 誠蔵、河合 宣行、  
菊井 勉、佐藤 祐子、新城 達郎、（代理：菊地 剛）、高橋 和子、  
徳永 恭子、西尾 裕一郎（代理：安藤 清武）、萩原 英二（代理：安島 巧）、  
服部 武、本多 美雄、正村 達郎、室田 和昭、若尾 正義
  - （2）事務局  
鳥巢衛星移動通信課長、新田衛星移動通信課企画官、  
永田課長補佐、吉田係長、田野係長
- 4 議事概要  
議事に先立ち、事務局から新規の構成員の紹介があり、衛星移動通信課長挨拶、  
資料配付の確認が行われた後、以下の議題について審議が行われた。
  - （1）意見聴取の状況について  
事務局から、「Ku帯ヘリコプター衛星通信システムの技術的条件」及び「Sバンドを用いる国内移動体衛星通信システムの高速化に関する技術的条件」について、8月21日から9月11日まで、意見を募集したが、申出がなかった旨の説明があった。
  - （2）Ku帯ヘリコプター衛星通信システムの技術的条件について  
ヘリサット作業班の服部主任から資料 11-2-1 に基づいて説明が行われ、以下の質疑応答が行われた後、ヘリサット作業班報告書が委員会報告書案として承認された。
    - 追尾誤差の規定がないが、隣接衛星への影響は考慮されているのか。
    - 情報通信研究機構 (NICT) において実施された技術試験事務において、追尾性能について実現性が確認されている。
    - 現行のヘリテレシステムについても追尾する必要があるがどのように行っているのか。
    - 搭載されているジャイロで行っている。
    - ジャイロ等で誤差を検知し、指向方向がずれたら電波の発射を停止するという機能が必要となる。この機能と軸外輻射の規定で担保している。
    - 占有周波数帯幅の許容値が7.8 MHz と具体的な数値が規定されている。これは、情報速度として1.5 Mbpsということが前提になっているとのことだが、

放送用途などでは 1.5 Mbps で十分なのか。

- 周波数安定度等の課題もあり、これまでのところ 1.5 Mbps まで技術的に確認されている。それ以上のものについては、今後の検討課題としている。
- 現在、具体的な計画のあるユーザーの要求要件として 1.5 Mbps で十分なのか。
- そのように聞いている。

(3) S バンドを用いる国内移動体衛星通信システムの高速化に関する技術的条件について

S 帯 MSS 作業班の服部主任から資料 11-3-1 に基づいて説明が行われ、以下の質疑応答が行われた後、修正コメントを反映した上で S 帯 MSS 高速化作業班報告書が委員会報告書案として承認されることとなった。

- 直線偏波が追加されたとのことだが、移動衛星業務では偏波追尾の必要な直線偏波はなじまないのではないか。
- 将来的には、様々な技術の組合せで高度化が図られていくものと考えられることから、規制を緩和することとしている。
- サービスリンク周波数のすぐ上の周波数である 2690-2700 MHz には電波天文が分配されており、本周波数での発射は禁止されている。報告書には電波天文との両立性について記載がないが、どのような検討結果なのか。
- 検討にあたっては、電波天文への影響がないことが前提条件として、隣接周波数を使用している広帯域移動無線アクセスシステム (BWA) との干渉検討を行った。
- 本システムの高速化の検討にあたっては、電力等は現行システムの範囲内であることから両立性は保たれているものとして、(本システム導入後に導入された) BWA との共用検討が中心に行われたものと理解している。
- 指摘を踏まえ、報告書に電波天文との両立性に関する記述を追加することとしたい。内容については、別途照会することとしたい。
- 一般的条件が緩和されているが、問題なく運用できるのか。
- 高度化にあたっては、様々な技術の組合せが想定されるため、柔軟に対応できるようにしたものであり、問題はない。
- 技術的条件は、できるだけ限定しない方向になっている。ユーザーにとっては良いことである。

(4) 今後のスケジュールについて

事務局から今後のスケジュールについて説明が行われ、両報告書案について歩委員会での指摘事項を反映した上で、パブリックコメントの手続を進めることとされた。

また、パブリックコメントの結果を受けて、必要に応じて作業班を開催した後、委員会を開催して最終的な承認が得られた後、情報通信技術分科会において大森主査からご報告いただく予定である旨説明があった。

<配付資料>

資料 11-1 移動衛星通信システム委員会構成員名簿

資料 11-2-1 ヘリサット作業班報告書概要

資料 11-2-2 ヘリサット作業班報告書

資料 11-3-1 S帯 MSS 高速化作業班報告書概要

資料 11-3-2 S帯 MSS 高速化作業班報告書

資料 11-4 今後のスケジュール

参考 11-1 移動衛星通信システム委員会（第10回）会合 議事要旨

参考 11-2-1 ヘリサット作業班構成員名簿

参考 11-2-2 S帯 MSS 高速化作業班構成員名簿